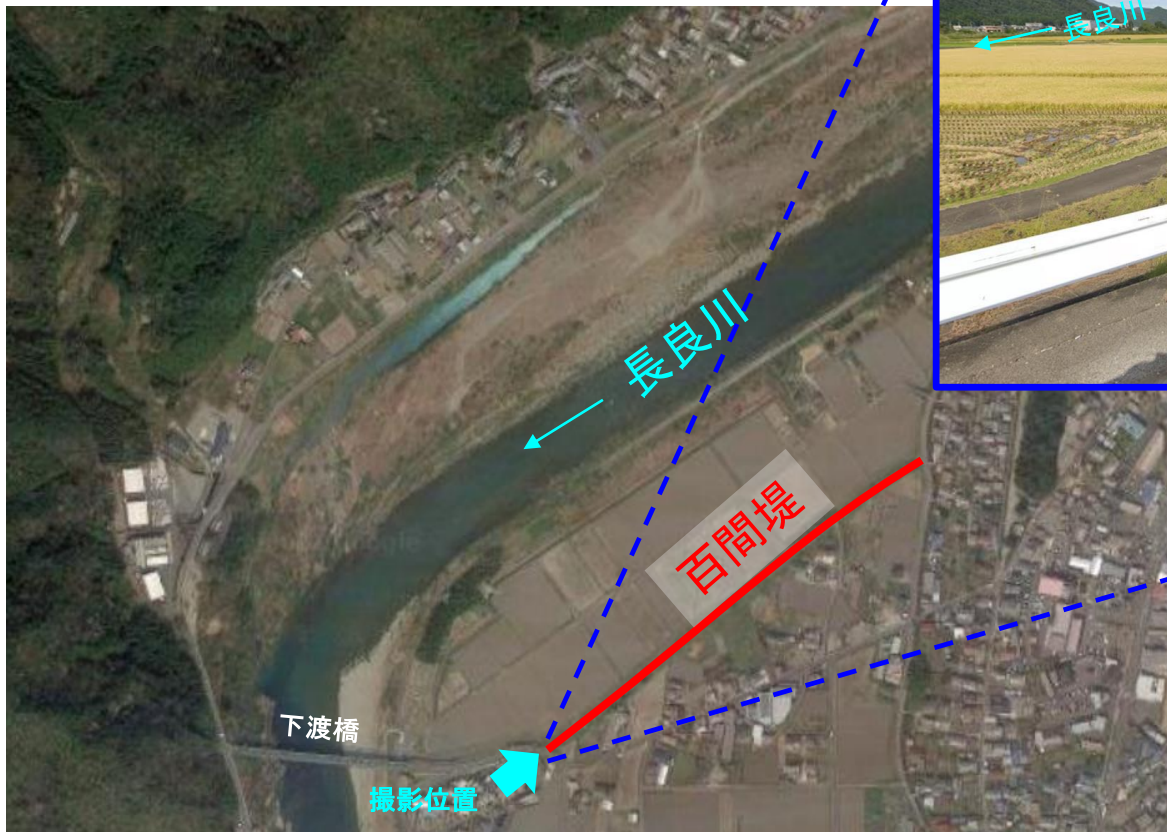


百間堤の強化について

国土交通省 中部地方整備局
木曾川上流河川事務所
令和4年11月

1. 整備概要

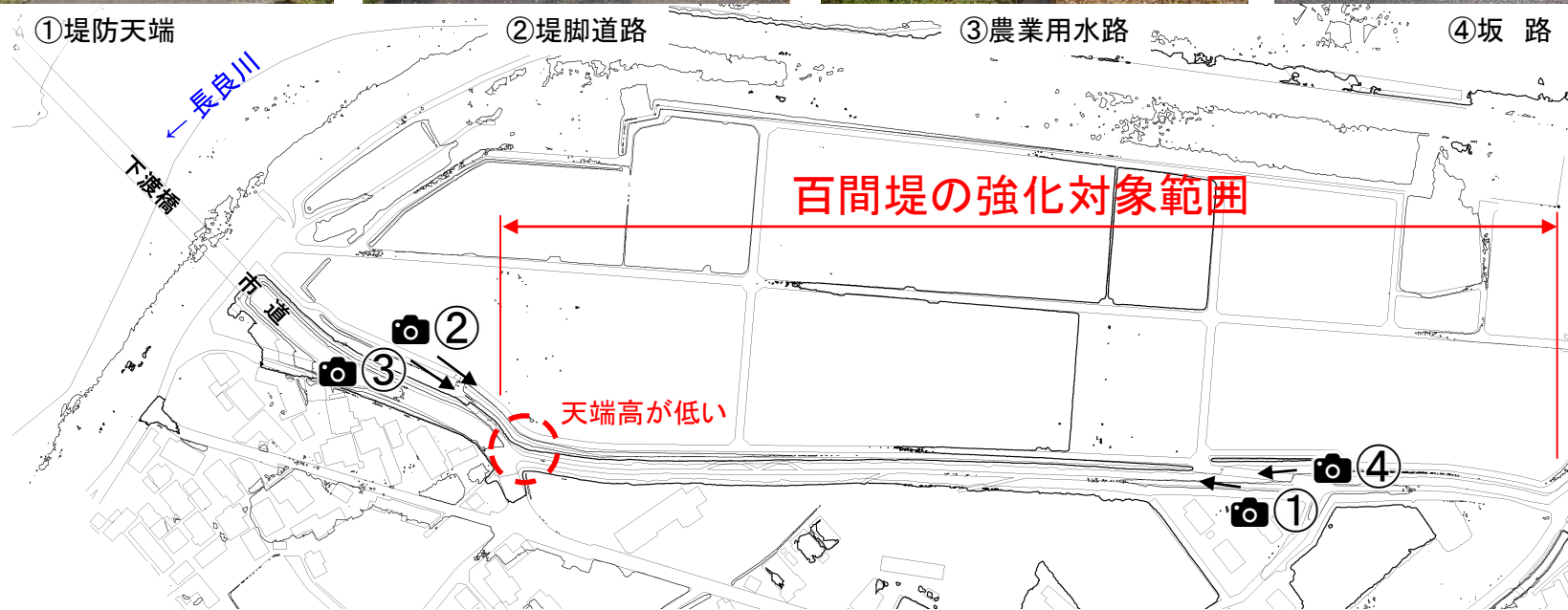
○ 遊水地整備に伴い発生する掘削土砂を活用し、百間堤の腹付け盛土を実施する。



拡大写真

2. 現地状況

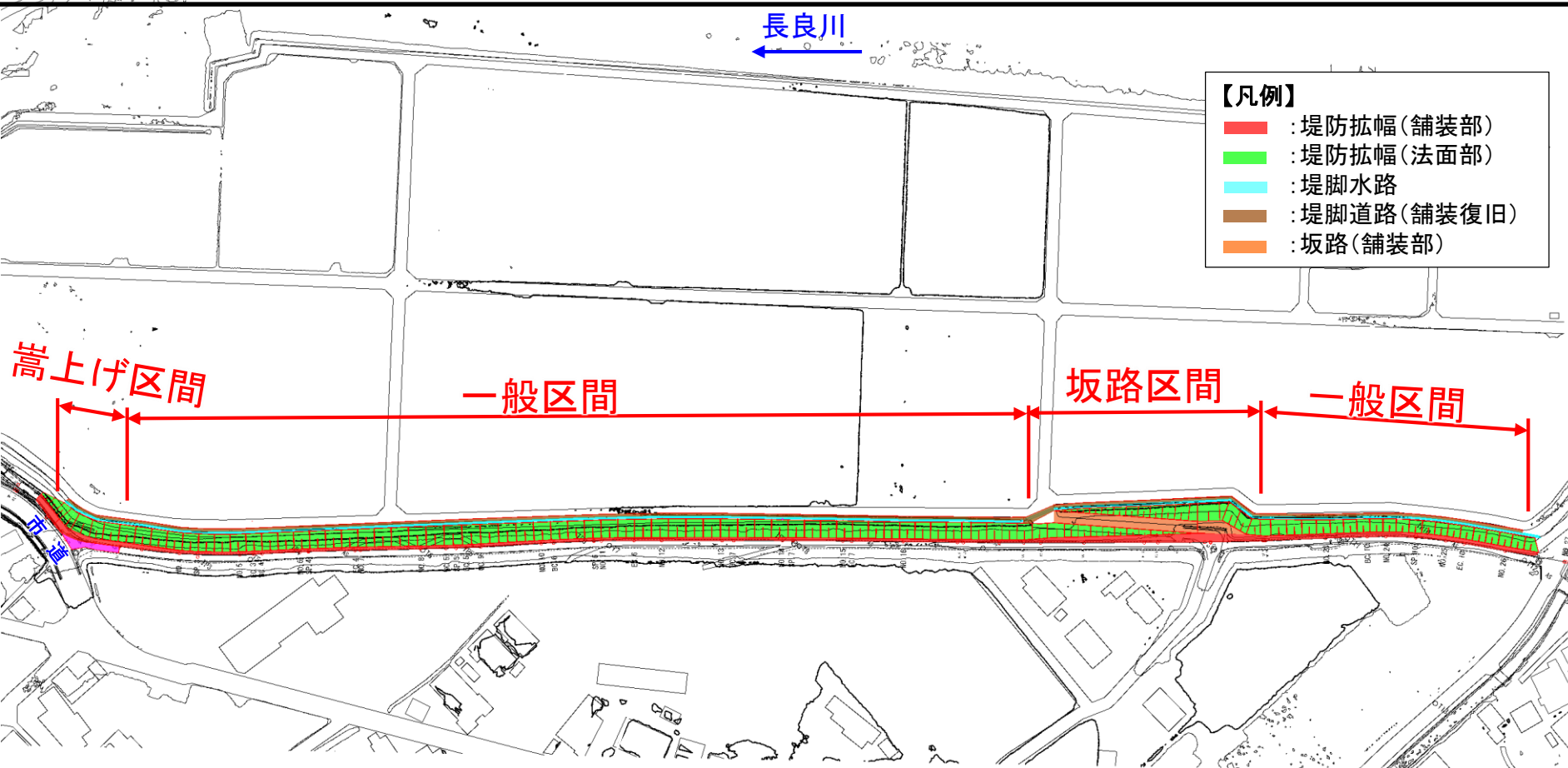
- 百間堤の天端幅員は約2.5mで、アスファルト舗装されている。(写真①)
- 長良川側の堤脚部には、幅員約2.5mの道路と、高さ30cm・幅30cmの農業用水路が整備されている。(写真②、③)
- 百間堤の中間にある坂路は幅員約4.0mで、ガードレールが設置されている。(写真④)



3. 整備方針

既存施設の状況に応じて、区間を3パターンに分類し、整備を実施する。

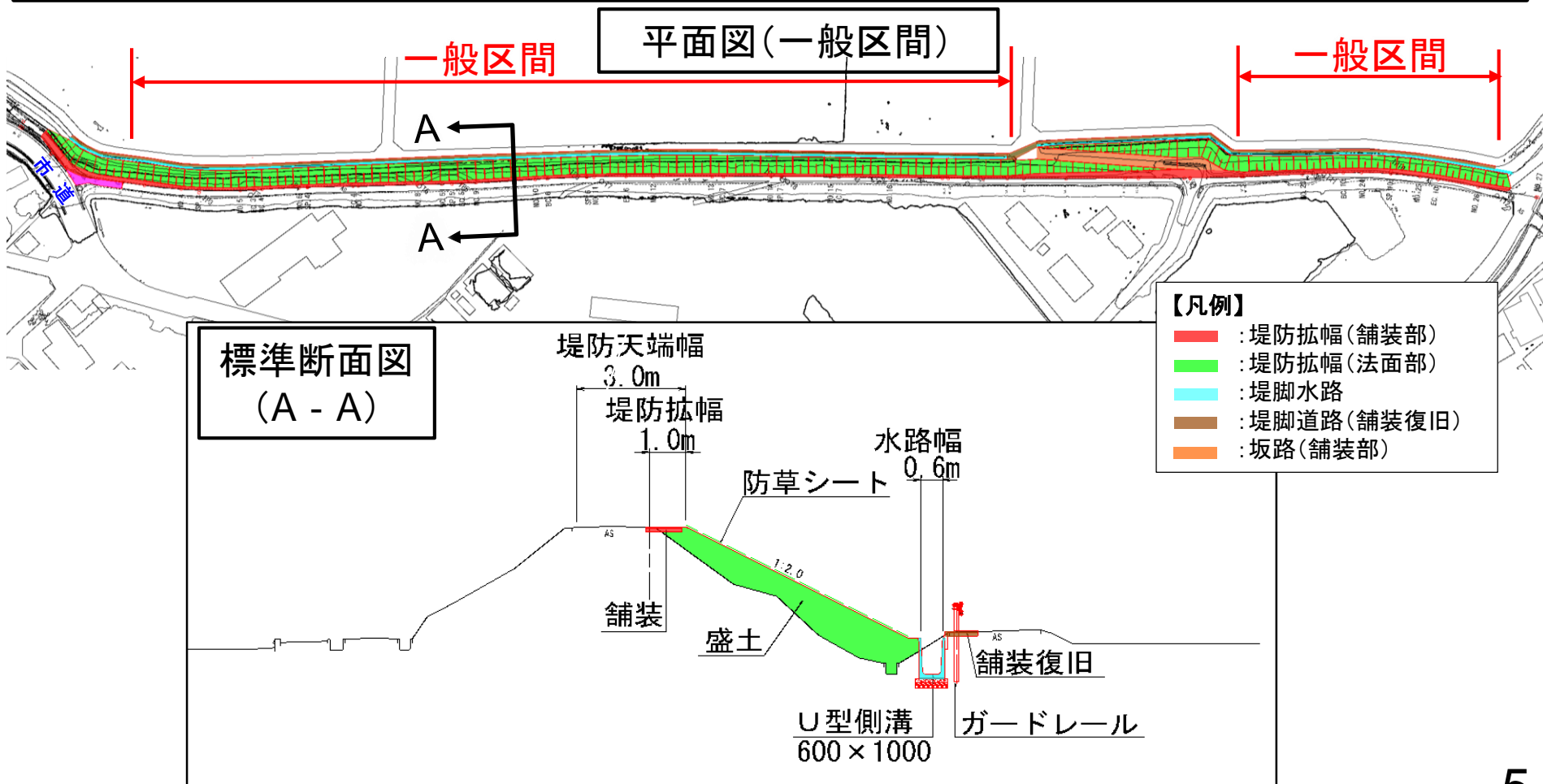
- 一般区間 : 百間堤の長良川側に現況と同等の法勾配で腹付け盛土を行い、農業用水路・道路を復旧する。
- 嵩上げ区間 : 高さが低くなっているため、百間堤の長良川側に腹付け盛土とともに嵩上げする。
- 坂路区間 : 百間堤の長良川側に腹付け盛土を実施したうえで、現況と同等の坂路を復旧する。



3. 整備方針(一般区間)

一般区間における整備方針を以下のとおりとする。

- ① 堤脚道路は、現況位置及び幅員を基本とする。
- ② 現況法面勾配相当で腹付け盛土を行い、堤脚道路と腹付け盛土の間に側溝を付け替える。
- ③ 堤脚道路から側溝への車両の転落防止対策として、側溝に並走してガードレールを設置する。
- ④ 盛土部の法面は、植生の抑制および雨裂防止のため、防草シートを設置する。

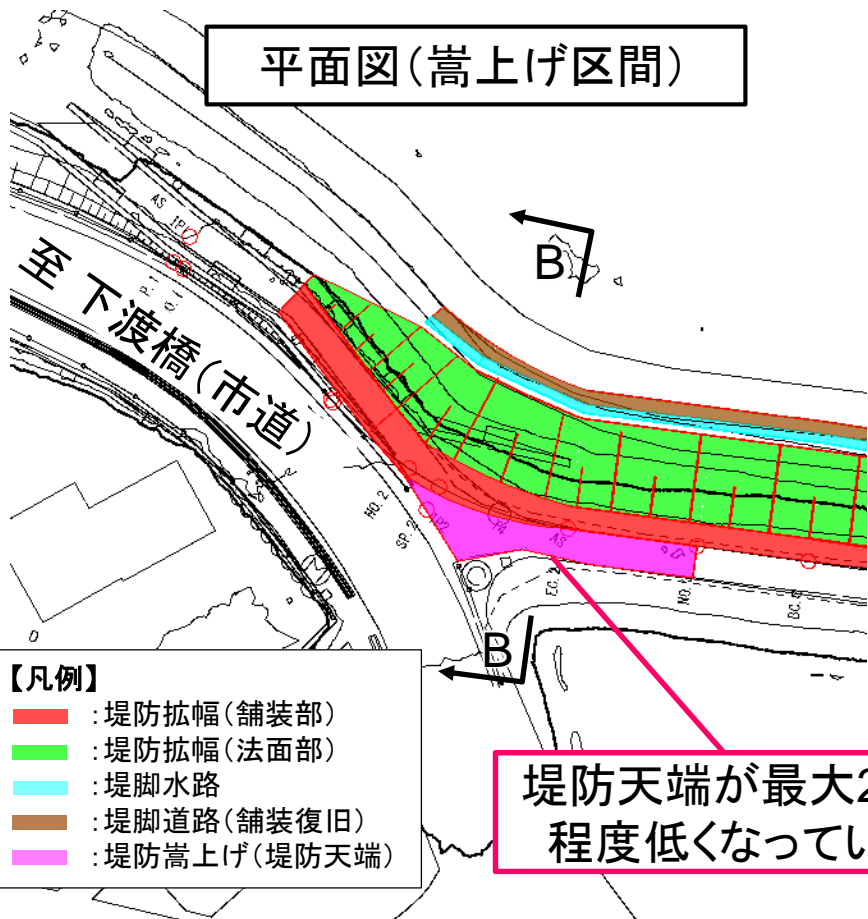


3. 整備方針(嵩上げ区間)

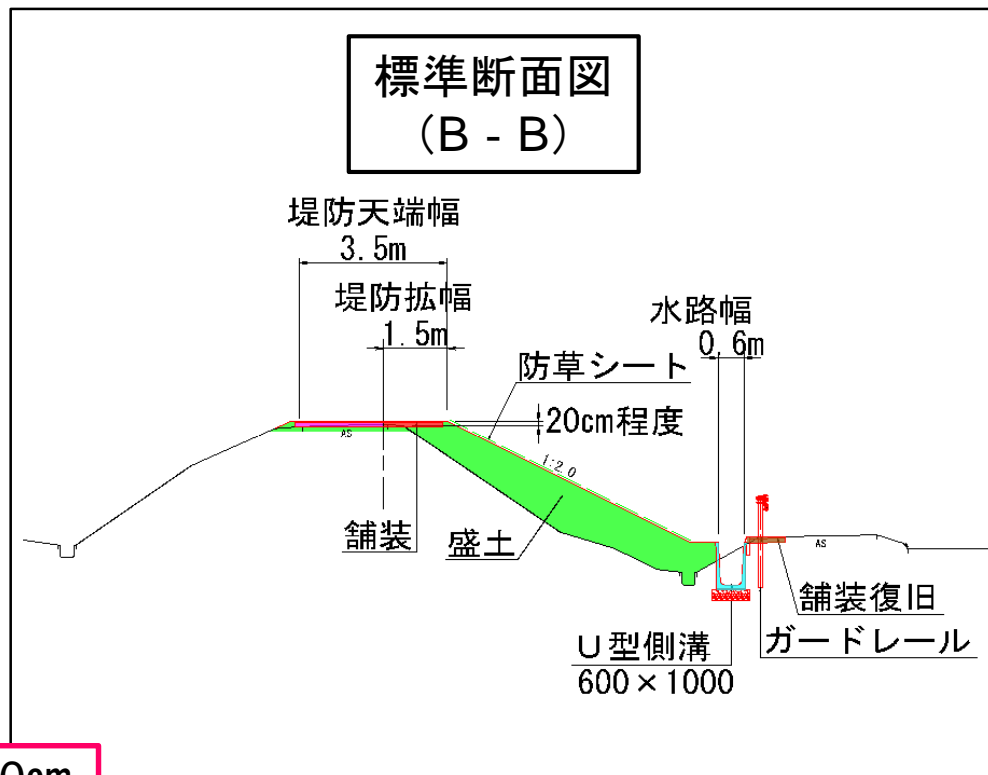
嵩上げ区間における整備方針を以下のとおりとする。

- ① 市道との合流点付近の天端高が低い区間は、一般区間と同程度の高さまで嵩上げする。
- ② 堤脚道路は、現況位置及び幅員を基本とする。
- ③ 現況法面勾配相当で腹付け盛土を行い、堤脚道路と腹付け盛土の間に側溝を付け替える。
- ④ 堤脚道路から側溝への車両の転落防止対策として、道路に並走してガードレールを設置する。
- ⑤ 盛土部の法面は、植生の抑制および雨裂防止のため、防草シートを設置する。

平面図(嵩上げ区間)



標準断面図
(B - B)

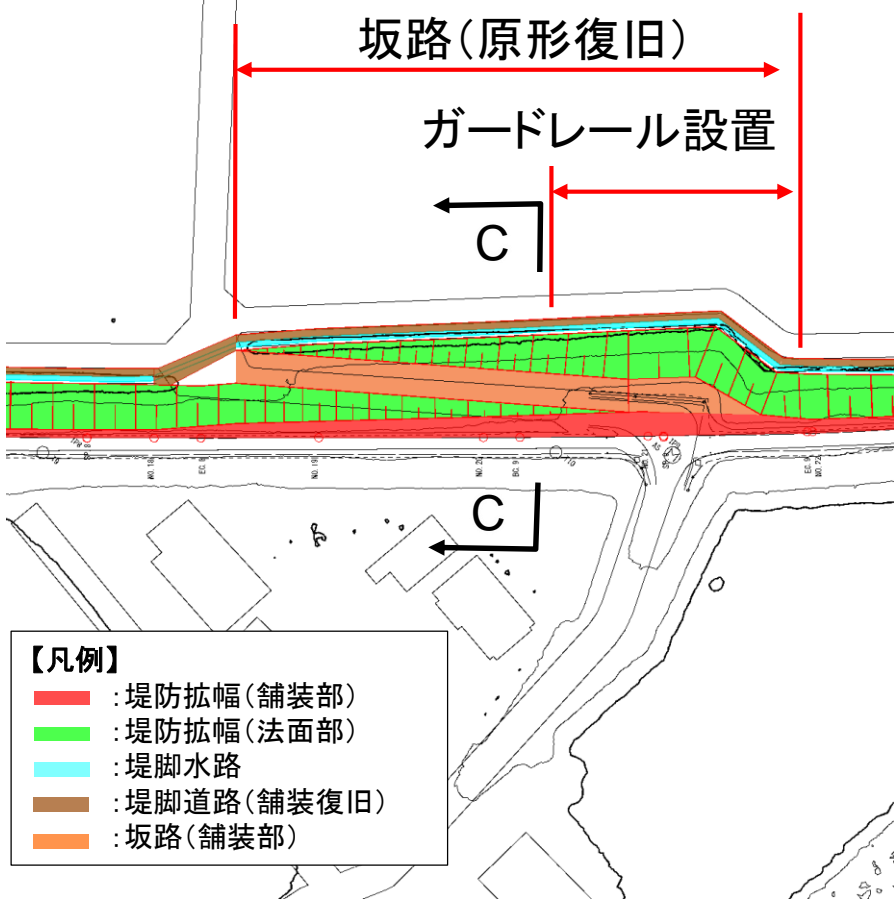


堤防天端が最大20cm
程度低くなっている

3. 整備方針(坂路区間)

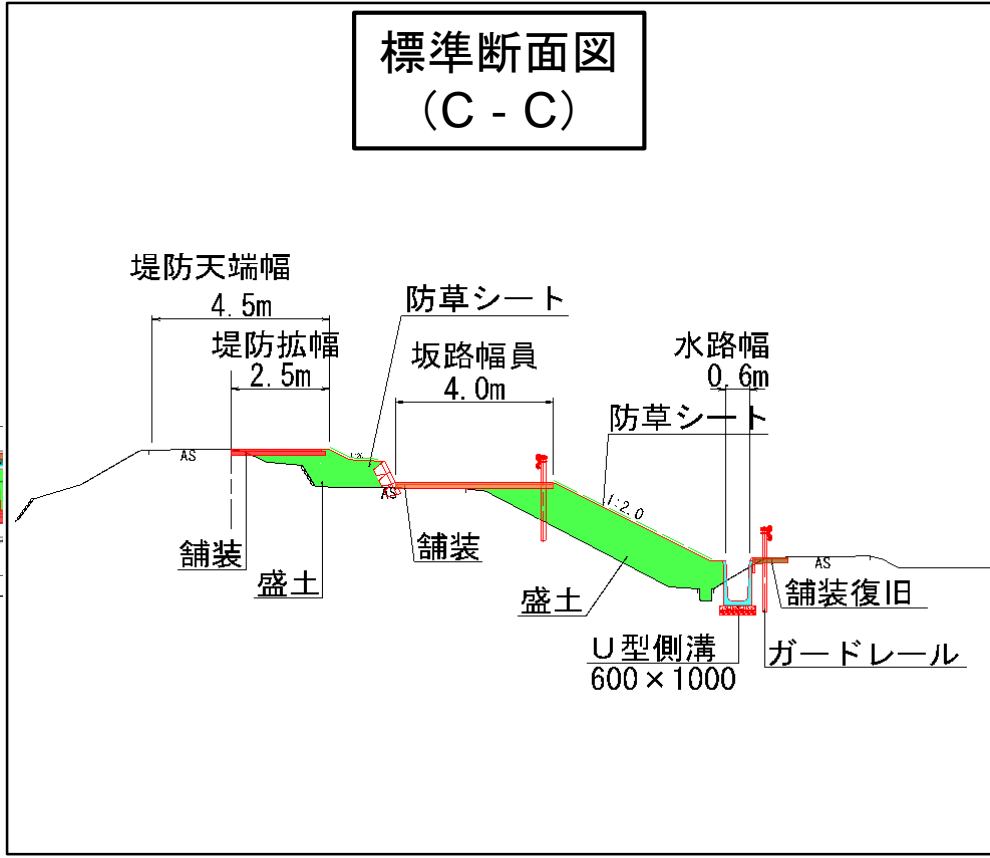
- 坂路区間における整備方針を以下のとおりとする。
- ① 腹付け盛土後、通行機能を確保するため、坂路を現況幅員で原形復旧する。
 - ② 坂路は整備前と同様にアスファルト舗装を行うとともに、ガードレールを設置する。
 - ③ 盛土部の法面は、植生の抑制および雨裂防止のため、防草シートを設置する。

平面図(坂路区間)



- 【凡例】
- : 堤防拡幅(舗装部)
 - : 堤防拡幅(法面部)
 - : 堤脚水路
 - : 堤脚道路(舗装復旧)
 - : 坂路(舗装部)

標準断面図 (C - C)



長良川遊水地の整備について

国土交通省 中部地方整備局
木曽川上流河川事務所
令和4年11月

平成16年10月洪水による被害

被害状況（直轄管理区間上流端～板取川合流点）

浸水面積：461ha

被災家屋：床上浸水218戸

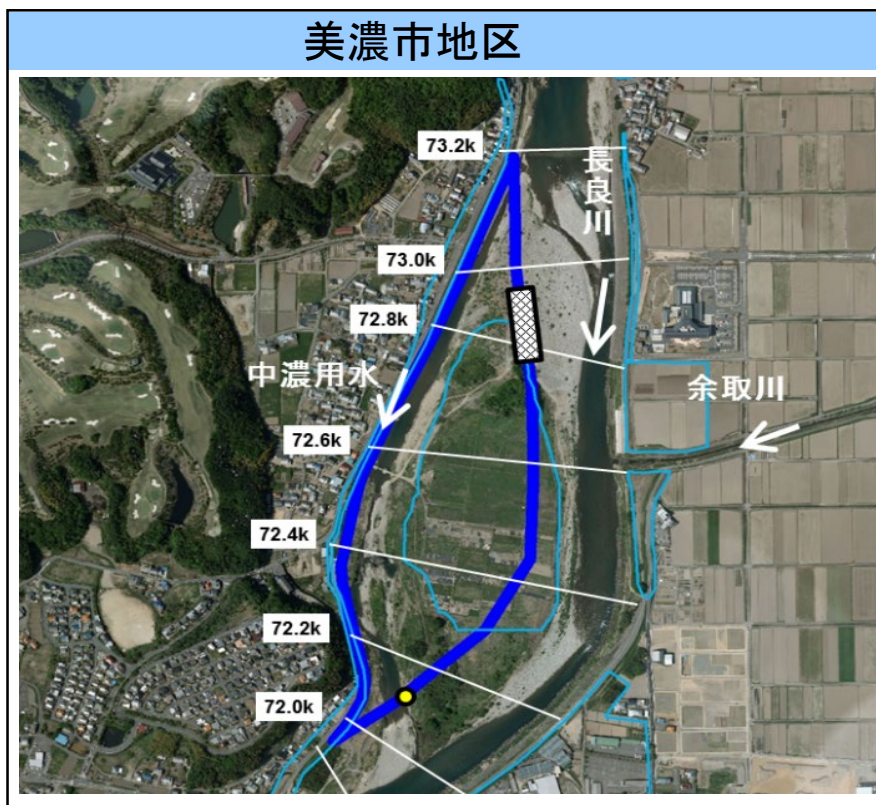
床下浸水142戸

半壊家屋 8戸



※引用）・岐阜県ホームページ（写真、被害状況）
 ・長良川 床上浸水対策特別緊急事業パンフレット（岐阜県）（被害状況）
 ・平成16年台風23号記録誌～その被害と復旧の記録～（岐阜県）

- 戦後最大流量を記録した平成16年10月洪水と同規模の洪水に対応するための遊水地整備について、令和元年度第1回木曽川水系流域委員会において、美濃市及び関市の2箇所が長良川遊水地の候補箇所として選定。
- 選定された2箇所について、木曽川水系河川整備計画(令和2年3月変更)に反映。



凡例

越流堤		排水樋門	
周囲堤		平成16年10月洪水での浸水範囲	

※出展：平成16年台風23号水害報告 岐阜県河川課(一部加筆修正)

遊水地の概要

河川名	施行の場所	機能の概要等			
		湛水面積(ha)	容量(万m ³)	目的	
長良川	右岸	岐阜県美濃市	約20	約144	洪水調節
	右岸	岐阜県関市	約20	約55	

遊水地整備の留意点と整備効果

- 本遊水地は河道内に整備するものであるが、長良川本川の河道掘削※1を合わせて行うことで、河道の流下能力を現況よりも上げるものである。
- 遊水地整備と河道掘削により、平成16年10月洪水と同規模の洪水に対し、長良川本川において約0.4m～0.9mの水位低下効果が見込まれる。

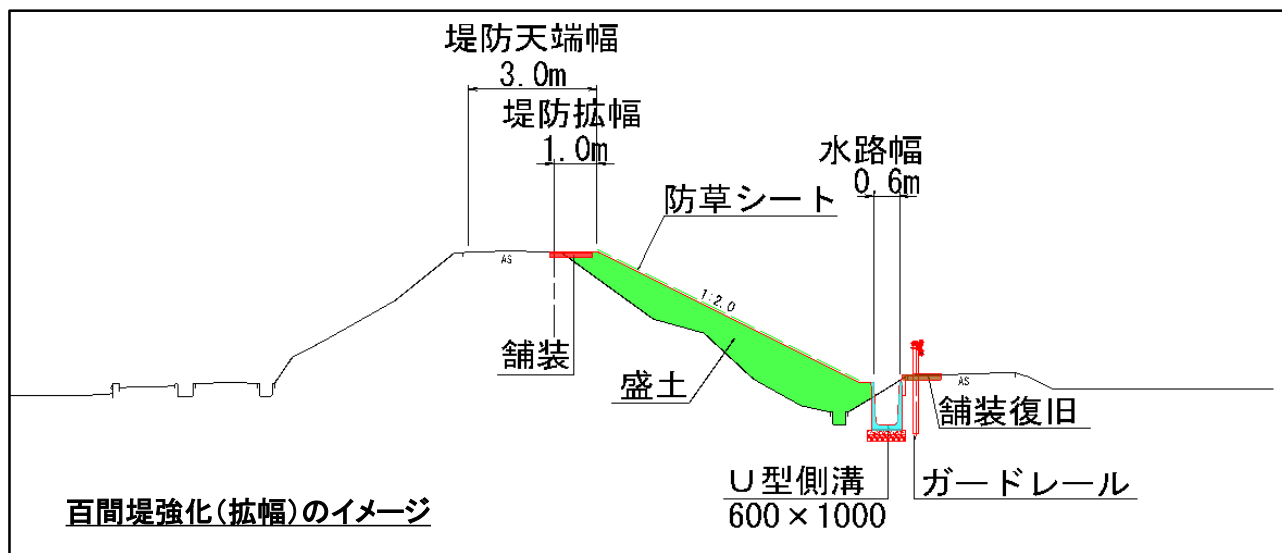
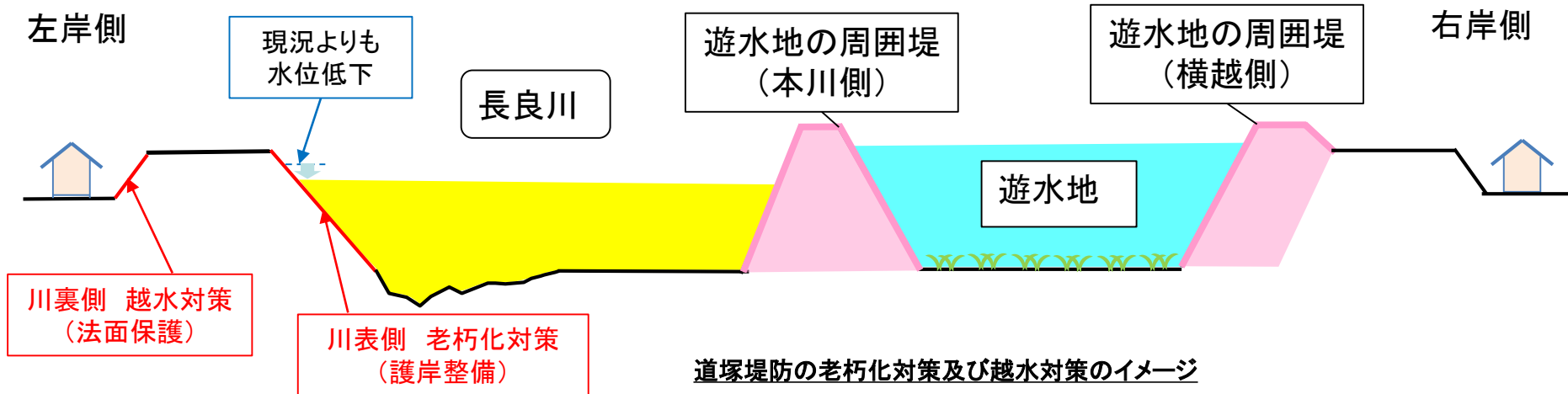
※1 連続する上下流で同程度の河道幅とすることで河道掘削後の土砂の再堆積を抑制
(再堆積による支障が認められた場合には予算の範囲内で維持掘削を実施)



令和4年11月時点での検討状況を示すものであり、今後変更となる場合があります。

道塚堤防の強化について

○遊水地整備及び本川の河道掘削と合わせて、道塚堤防の老朽化対策や越水対策、百間堤の強化(拡幅)等を行い、左岸地区の安全性を向上させる。



遊水地整備後の洪水に対する安全性について

- 遊水地は河道内に整備するものであるが、遊水地整備と合わせて本川の河道掘削を行うことで、現況よりも安全度の高い河道とする。
- 遊水地整備及び河道掘削により、平成16年10月洪水と同規模の洪水に対し、長良川本川において約0.4m～0.9mの水位低下効果が見込まれる。
- さらに、遊水地整備と合わせて道塚堤防の老朽化対策(川表側)や越水対策(川裏側)、百間堤の強化(拡幅)を実施し、左岸地区の安全性を向上させる。
- これらの治水対策は、平成16年10月洪水を上回る洪水(超過洪水)に対しても有効であり、左岸地区は超過洪水に対しても現況より安全性が向上する。

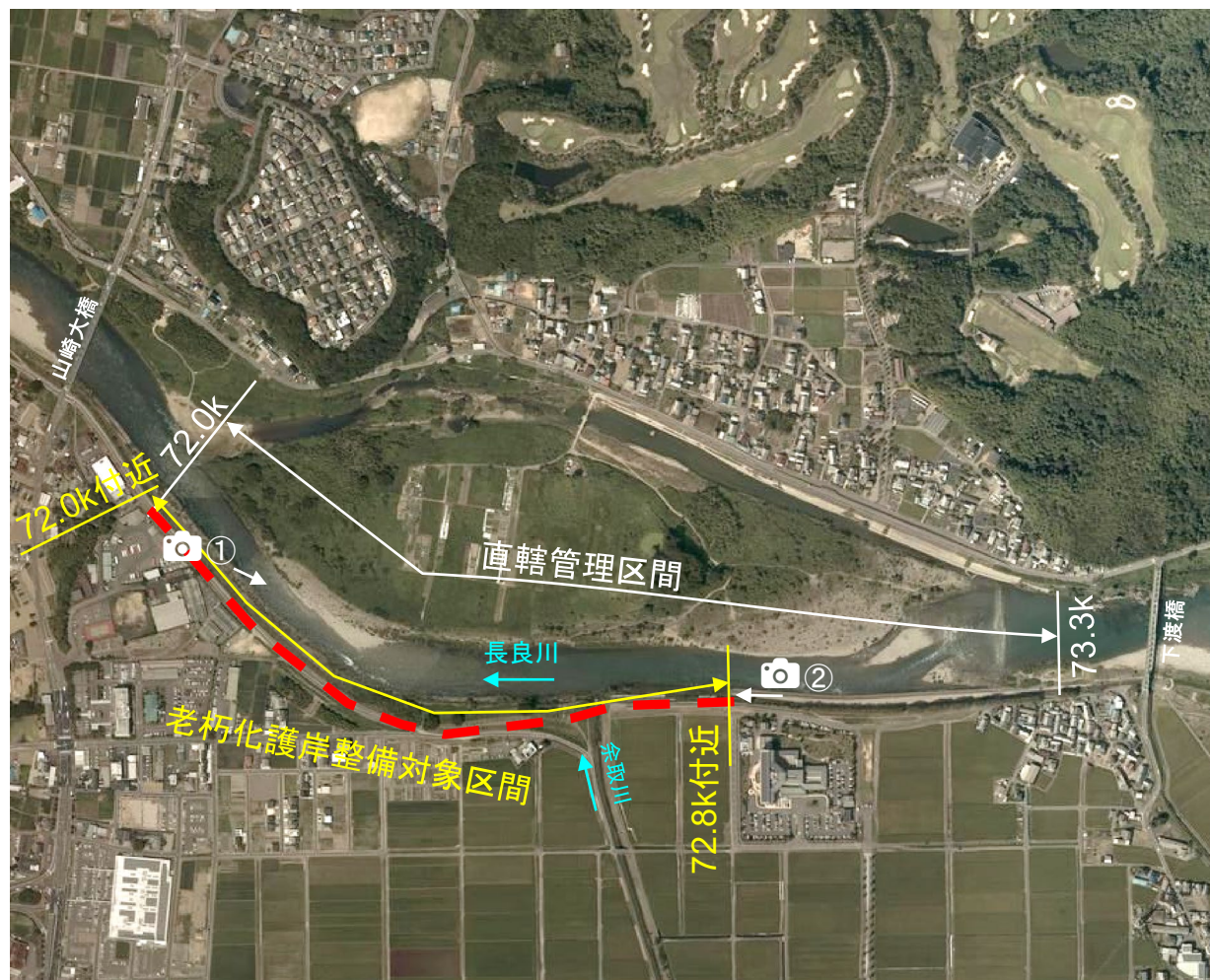
左岸堤防(道塚堤防)の老朽化対策について

国土交通省 中部地方整備局
木曾川上流河川事務所

令和4年11月

1. 堤防整備の概要

- 令和3年4月より、長良川河口から72.0k～73.3kの区間は、国土交通省の直轄管理区間となった。
- 直轄管理区間の左岸堤防の点検結果を踏まえ、老朽化対策を実施する。
- 整備区間は、72.0k～72.8k付近を対象とする。



写真① 72.0k付近より上流を望む



写真② 72.8k付近より下流を望む

2. 現堤防護岸の状況

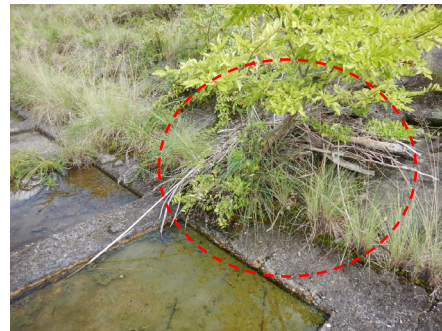
- 左岸堤防の川表護岸は、玉石護岸および法枠コンクリート護岸等が整備されている。
- 護岸の状態は、老朽化が進み、コンクリートの剥離やひび割れ・欠損、樹木が繁茂している。
→ 老朽化の進行に伴い、護岸機能の低下が懸念されるため、左岸堤防の川表護岸の整備を行う。



写真① 護岸のひび割れ・欠損



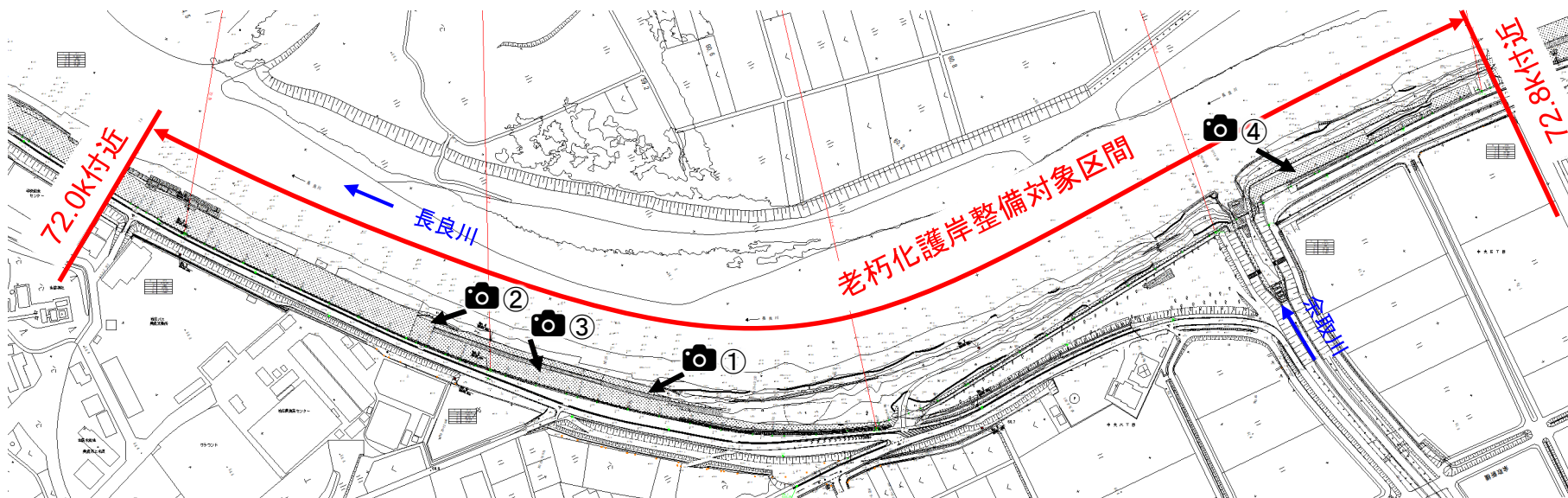
写真② コンクリートの剥離



写真③ 樹木の侵入

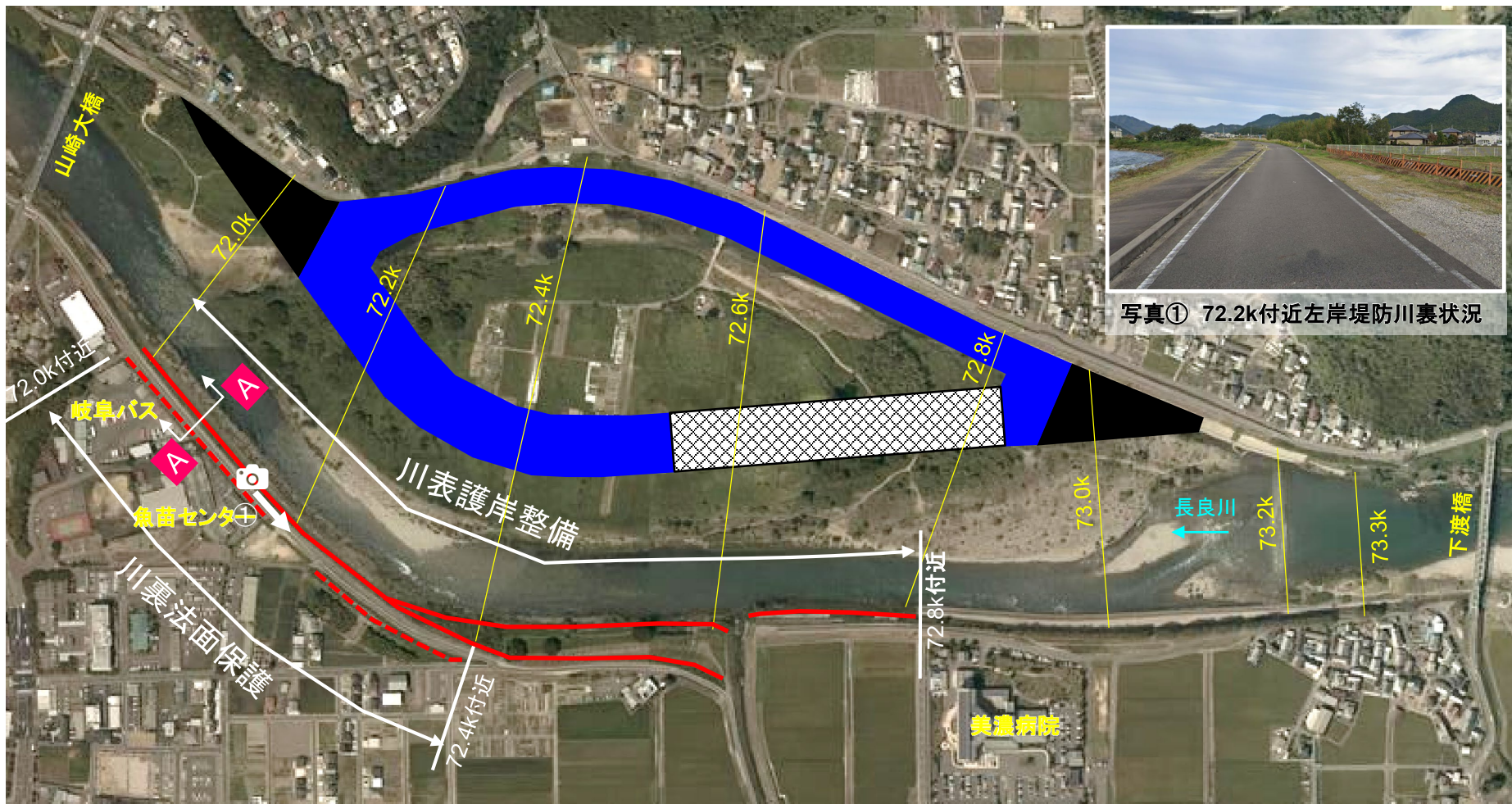


写真④ コンクリート吹付部の劣化に伴う植生の侵入



3. 堤防整備の内容

- 左岸堤防の川表護岸の劣化状況および今後の老朽化の進行の恐れがあることを踏まえ、72.0k～72.8k付近の川表護岸の整備を実施する。
- 過去に越水の実績がある区間を中心に、川裏法面の保護対策を合わせて行う。



写真① 72.2k付近左岸堤防川裏状況

3. 堤防整備の内容

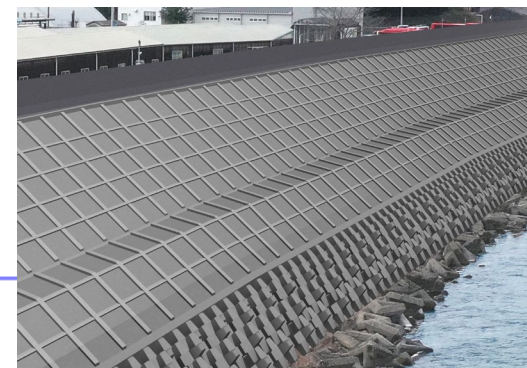
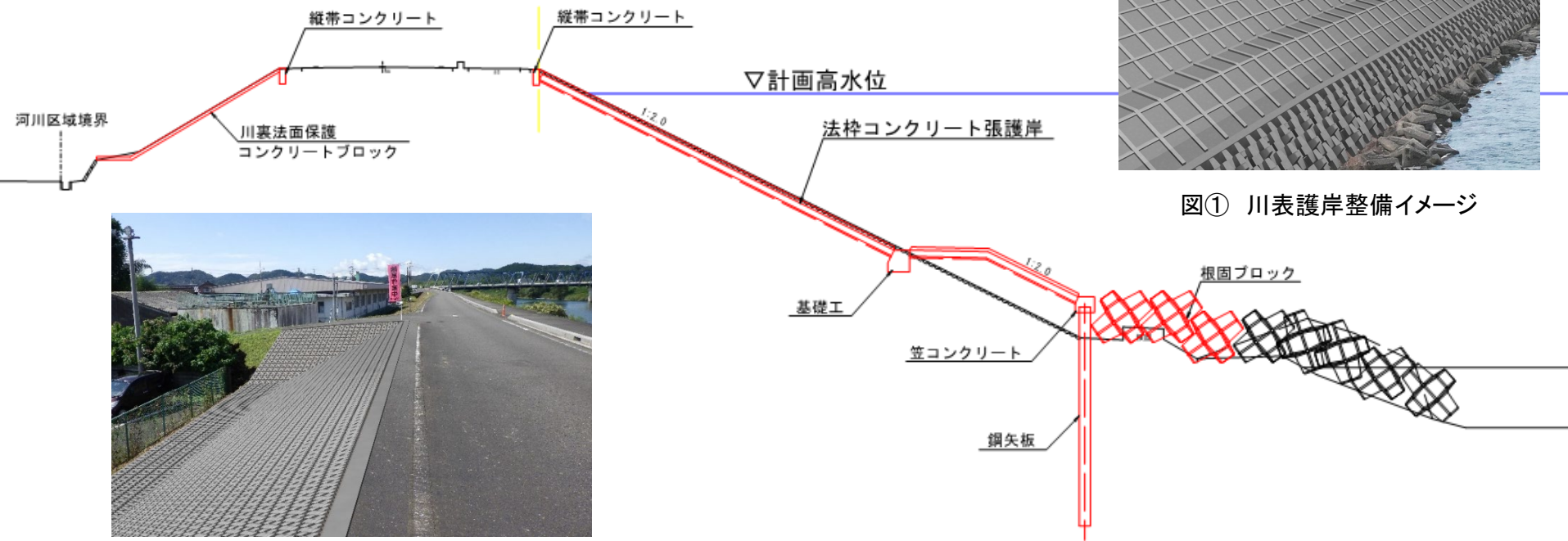
【川表護岸整備】

- 護岸の形式は、72.8k付近より上流の既設護岸と同様の構造である法枠コンクリート張護岸とする。
- 護岸の改修は、生態系への影響等を考慮し、水辺の改変を避けるため鋼矢板を用いた護岸とする。

【川裏法面保護整備】

- 越水実績を考慮し、越水による堤防法面侵食を防止するため、コンクリートブロックを設置して強化する。
- 沿川の民家や施設等に影響しないよう、河川区域内で整備を実施する。

標準断面図(A-A)



図① 川表護岸整備イメージ



図② 川裏法面保護整備イメージ